

図表・チャートでパッと理解！ ここまでわかった産婦人科の病態生理

本増刊号では病態生理を取り上げます。現在行われている診断、治療、予防の原理や背景を理解するためにも、臨床経過や予後を推定するためにも、また研究の方向性や創薬のターゲットを探索するうえでも、病態生理の理解は欠かせません。

約30年前にも本誌で病態生理をテーマとする増刊号を出版していましたので、今回の参考とするために以前取り上げた疾患を確認しました。当初あまり疾患の項目は変えずに、内容を最新の知見を踏まえてアップデートしてはどうかと考えていましたが、確認してみると、約30年という月日の間に新たに注目されてきた疾患、概念が様変わりした疾患が比較的多く存在することがわかりました。したがって構成にはかなり手を入れることになりました。

病態生理については、本誌通常号の特集でも多様な観点から触れていますが、様々な疾患の病態生理を1冊にまとめると、リファレンスとして非常に便利です。特に自分の専門外の疾患については、多くの情報源から病態生理をアップデートするのはなかなか困難です。この目的には、短時間に要領よく内容が掴めることがポイントになると考えました。そこで忙しい臨床の合間に「パッと」手に取って読んでいただけるものを目指し、本増刊号のタイトルは「図表・チャートでパッと理解！ここまでわかった産婦人科の病態生理」としました。

生理学の観点からみても、人の体を動かす仕組みは、幾重にもセーフティーネットが張られ、多様なフィードバックや相互作用がめぐらされた複雑系です。その破綻ともいえる病態生理は、疾患によっては非常に錯綜しており、まだ十分に解明されていない場合も多々あります。このような状況ではありますが、執筆者の先生方には無理を承知で、現時点での病態生理の見取り図を簡潔にわかりやすく解説いただくようお願いしました。

読者の皆様には、本増刊号を活用して最新の病態生理像を理解し、明日からの診療に役立てていただきたいと思います。また本増刊号が、様々な段階の専門医を目指す若手医師の先生方や、研究分野を模索している研究者の方々にも有用な1冊となることを期待しています。

「産科と婦人科」編集委員会

東海大学医学部専門診療学系産婦人科	石本 人士
帝京大学ちば総合医療センター産婦人科	五十嵐敏雄
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科茨城県地域産科婦人科学講座	寺内 公一
横浜市立大学医学部産婦人科学教室	宮城 悦子